

# 第6回コミュニケーション推進チームにおける 委員ご指摘事項とその対応について

令和5年9月25日

環境省 環境再生・資源循環局

# ①技術開発戦略のとりまとめの方針関係

## ご指摘事項

- 最終目標に向かってどのようにロードマップを持っていくか、どのような指標をつくるか。（高村座長）
- 全体としてどこに向かって、何をやっていくのか、体系的に整理できるようにするべき。（大沼委員）
- （前回C Tの資料2について）認知→興味→理解→参加→共有・拡散とあるが、参加はあくまでもツールであり、究極のゴールは受容である。受容に向けて、取り組んでいるというふうな全体を捉え直すと良い。（大沼委員）
- 取組全体をどう理解するか。一方向か双方向か、さらに双方向の深いものとして参加型があるというふうな捉えたほうが良い。現地来た人にはより共有、共感していただけるという空気があったので、全体を整理し直した方がいい。（大沼委員）
- 取組の中で伝えるべき内容について、この取組ではこの程度といった目標設定があったほうがいい。（保高委員）
- コミュニケーション推進チーム、広報、理解醸成活動に関して、戦略目標のゴールに対して、今どの程度まで来ているのか、またそれ以降に戦略目標をどのように立てて行くのかという議論を進めていくと良い。（保高委員）
- 個々人だけでなく、社会に向けたアウトカムの視点も必要。（竹田委員）



議題2で議論

## ②理解醸成の個別の施策関係（1）

	ご指摘事項	環境省の回答
WEBアンケート等の分析について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全性に対する受け止めが、県外では肯定的な意見の割合が上がっていないことは課題。なぜ上がっていないのか分析できたら良い。（大沼委員）</li> <li>● 一般的な新聞やメディアでどのくらい報道があったか、年度毎に統計的な情報を整理すると、認知度を図る上で活用できるのでは。（保高委員）</li> <li>● WEBアンケートを見るとSNSから情報を取った方が少ないが、SNS強化による効果はあるか。（竹田委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回のWEBアンケート結果分析において、安全性の県外内の受け止めの違いも検討する。</li> <li>● 報道状況の分析については、引き続き検討する。</li> <li>● 今年度より、イベント告知だけでなく、取組の情報発信方法としてもSNSを利用し、その効果についても引き続き確認していく。</li> </ul>
理解醸成の対象について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治体は非常に重要なターゲット。自治体が意識を持つことで住民の方に広げていくきっかけになる。（高村座長）</li> <li>● 学会と連携してシンポジウムとして除去土壌の問題を取り上げていただく等、そこからの波及効果を狙うのも一つ。海外への発信という意味でも、国際学会の場での情報発信も重要。IAEAとの専門家会合の実施は重要。いかにメディアに取り上げてもらうかもにらみながら進めていけば効果的。（高村座長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内外の自治体に対する理解醸成は引き続き実施する。</li> <li>● 国際的には、IAEA専門家会合を始め、COPへの出展等で情報発信していく。また、国内の関係学会との連携も引き続き取り組む。（例：8/31の除染学会の研究発表会で環境省より講演を実施）</li> </ul>
無関心層への広報について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 興味がなかったけどたまたま知ってしまう状況をつくり出すというようなことを、様々な場所でやっていただくと良い（保高委員）</li> <li>● 交通広告等では、再生利用を促すよりは、今向き合っている課題を伝えていくべき。（万福委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞広告やTV番組、SNS等を活用し、無関心層への情報発信に取り組む。その際、まずは福島の問題を知ってもらえるよう、発信内容も工夫していく。</li> </ul>

## ②理解醸成の個別の施策関係（2）

	ご指摘事項	環境省の回答
次世代へのアプローチについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 県外最終処分や再生利用の受容性は、若い方が高いと感じるが、SNSの広報で興味を持ってもらえるかは難しい問題。除去土壌等の問題を認知したときの受容性を含め、総合的な施策を考えるべき（保高委員）</li> <li>● 小規模な車座対話は非常に良い取組で、参加者がSNSで発信することとも結構ある。一部分でSNSを使うのではなく、全般の活動を通じてSNSが活用されるよう考えると効果があるのでは（竹田委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若年層へのアプローチは重要。まずは知ってもらうところでSNSを活用するが、更に理解してもらうための取組も含め総合的な施策に取り組んでいく。</li> <li>● イベント参加者がSNSによる発信をしたくなるようなイベントとなるよう、引き続き取り組む。</li> </ul>
飯館村長泥地区の実証事業の広報につて	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工事の進捗と併せて、現地の見せ方を工夫すると良い。（万福委員）</li> <li>● 実証事業で取り組んでいる内容については、理解醸成とは異なり、科学的な根拠の部分となるのでアプローチは工夫すると良い（万福委員）</li> <li>● 一般の方向けの見学会は、昨年度と今年度で参加者がほぼ同等だが、参加者は増やせないのか（竹田委員）</li> <li>● 現地で協力いただいている方も高齢化している。次世代含め現地に来てもらう工夫が必要（万福委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飯館村長泥地区における実証事業の広報については、再生利用の必要性や安全性等を知っていただく上で重要であり、引き続き改善していく。</li> </ul>